汎用コンピュータからオープン環境への基幹系システム全面移行

下出聖子*
柿本孝幸*

Migration of Mission Critical Systems from Legacy Mainframe to Open Systems

Seiko Shimode, Takayuki Kakimoto

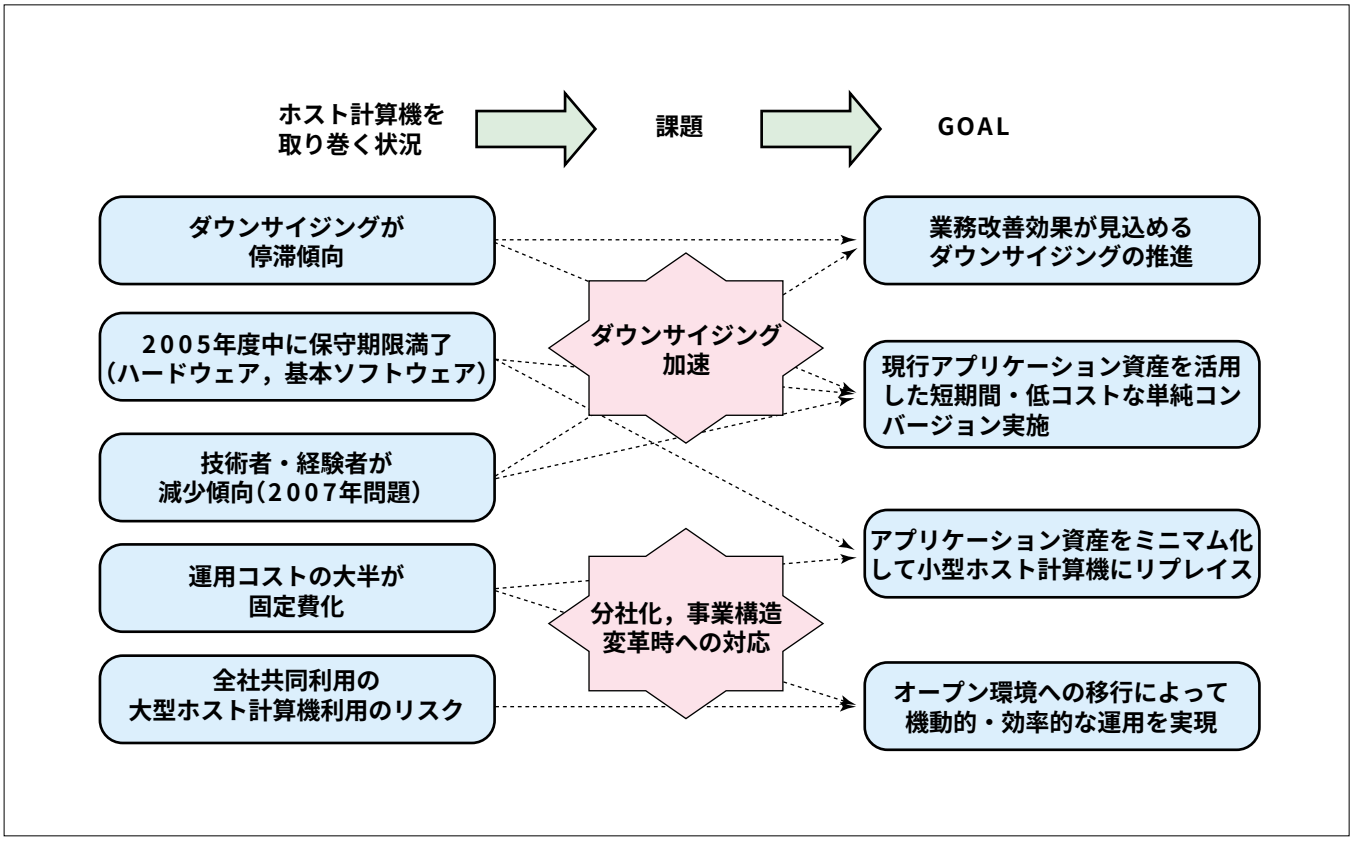
要　旨

三菱電機の基幹系業務システムの共通インフラとして全社で共同利用している大型汎用コンピュータ(以下“ホスト計算機”という。)は，2005年度中にハードウェア，基本ソフトウェアともに保守期限が満了となり，設備更新が必要となった。

ホスト計算機上には，業務改善効果を伴わない単純なダウンサイジングでは投資効果が見込めない中・大規模のシステムや，ホスト計算機の高い信頼性・安定性からオープン化を避けてきたシステムが残存していた。

しかし，現状規模を維持した状態での後継ホスト計算機移行は運用コスト増となり困難であったこと，2007年以降，定年退職を迎えホスト計算機関連技術者が不足する，いわゆる2007年問題へ対処するため，システムメンテナンスが比較的容易で低コストなオープン環境へ，2004年度から2006年度で，システム全面切り替えを実施した。

基幹系業務システムをオープン環境へ全面刷新することによって，今後の発展が期待される，Web技術をはじめとする，オープン環境での最新のIT技術を取り入れることが可能となり，ますます多様化，高度化する市場のニーズやビジネスの変化に，迅速に対応できる情報システムを目指した。



ホスト計算機を取り巻く状況と課題

ダウンサイジングが停滞傾向にあり，2005年度中にホスト計算機設備の更新が不可欠となった。ホスト計算機関連技術者・経験者の払底(2007年問題)，固定費化した運用費用，事業構造変化に伴う全社共同利用のホスト計算機利用のリスクを考慮すると，オープン環境へのダウンサイジング加速は喫緊の課題であった。